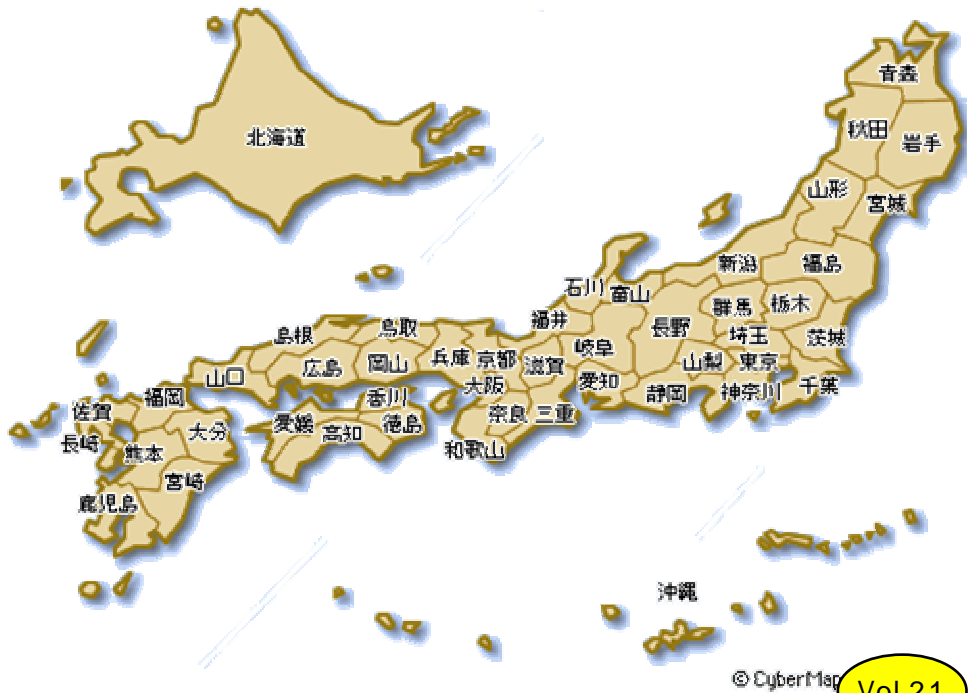


# 街並みを活かしたまちづくり

日本各地で見られる歴史的な建物が立ち並ぶ街並み。

これらを地域の資源として活用したまちづくりに取り組んでいる地域も少なくありません。

今回ご紹介する地域は、青森県黒石市、岐阜県高山市・飛騨市、京都府京都市、愛媛県内子町・大洲町・西予町です。



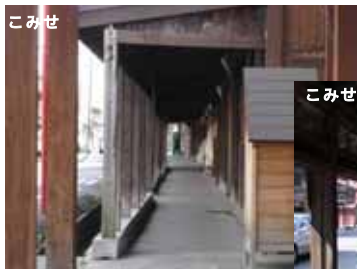
1

Vol.21

青森県黒石市は十和田湖北西(青森県のほぼ中央)に位置するまちで、黒石市中町には“こみせ”が残された通りがあります。

“こみせ”とは、今でいうアーケードのようなもので、商家にとっては欠かせないものでした。雨の日や雪の日、夏の強い日差しから、人々を守ってくれる“こみせ”は、現在も人々に快適な空間を与えています。

この“こみせ”には、昔ながらの造り酒屋等が軒を連ね、中には国の重要文化財に指定されているものもあります。現在は喫茶店として庭園でお茶を頂くことができ、地域のみなさんの“もてなしの心”も味わうことができます。



重要文化財  
高橋家住宅



多目的ホール「こみせん」

## ～ちよと一息～



温泉地で有名な大分県湯布院町では、独自性、開発抑制、情報発信、人材育成の4つをキーワードに、「観光温泉地」ではなく「保養温泉地」を目指した「湯布院型」としてのまちづくりや、まちづくりのリーダーや農業の後継者育成を通じたまちづくりなど、様々な分野からまちづくりに取り組んでいます。

岐阜県高山市は岐阜県の北部飛騨の中央高山盆地に位置しているまちで、古くからの街並みが残されています。その景観から「飛騨の小京都」とも呼ばれています。

この古くからの街並みを活かし、朝市等による賑わいづくりに取り組み、市民と観光客がともに楽しめるまちづくりを行っています。

昭和41年、市民が中心となって景観保存の取り組みを始め、現在では市の市街地景観条例に基づいて、個人への補償、町並み保存会への維持管理費補助等を実施しています。



上三之町伝統的建造物群保存地区

上三之町伝統的建造物群保存地区

下二之町伝統的建造物群保存地区  
周辺の状況

歩道の段差解消をしました

岐阜県飛騨市は岐阜県の最北端に位置しているまちです。なかでも古川町地区は、白壁土蔵と瀬戸川・古くからの町並みを活かしたまちづくりに取り組んでいます。

明治37年、大火によって市街地のほぼ全域が焼失してしまいましたが、町民の熱意と努力により現在の町並みが形成されました。伝統的建造物群保存地区には指定されていませんが、条例やガイドライン等を活用し、町並みを保全するため町民は全力を注いでいます。



散水消雪施設や電話線の地中化、電力線ボックスのデザインへの配慮がされています

瀬戸川沿いの町並み

古川町地区の町並み

白壁土蔵と瀬戸川沿いの町並み

**高山市・飛騨市のまちづくりの特徴は、** 昭和の時代から長きに渡って住民自らが古くからの町並みの保存を主体にまちづくりに取り組んでいる、町並み・景観を誇りに思い、それを守ろうという意識が強い、観光に頼らず、そこに住む人が住みよいまちづくりにとりくんでいることだと感じました。

## ～ちよと一息～

### 住民気質とまちづくり

みなさんの地域には、どのような住民気質がありますか？

岐阜県飛騨市には次のような住民気質があります！

**やんちゃ：**住民が一致団結し、創意と工夫によってひとつの目標に向かっていく。

**そうば：**ルールを守っていこうとする気質を表し、ルールを破ることを「そうばくぶし」と言って嫌われる。

**こうと：**地味で質素ながらも上品な気質や品格を表す言葉。

古川町地区では、このような気質と町屋建築を担う匠の技が融合し、ルールと技による町並みの形成が持続して行われています。

みなさんの地域の住民気質をまちづくりにうまく活かすことで、持続的なまちづくりができるのではないのでしょうか。

794年の建都から約1200年の長い歴史を持つ京都。きっと多くの皆さんが1度は訪れたことがあると思いますが、京都の魅力は一体どこだと思いませんか？

“やっぱり金閣寺や祇園祭（毎年7月1日から31日）などの観光でしょ！” “京町家とか伝統的で趣のある町並みもいいですよ！” “嵯峨鳥居本や鴨川のような自然もいいですね！” などなど、たくさんの声が聞こえてきそうです。

ここでは、「歴史的な町なみを活かしたまちづくり」について紹介したいと思います。



昔の日本にタイムスリップしたような町並み。ここは京都市の祇園町を南北に貫く花見小路です。ここ花見小路では、祇園の情緒ある雰囲気をも多くの人が味わえるよう町並みが再整備されました。

普段の花見小路通りの写真が無いのが残念ですが・・・、道路照明は周辺の景観に調和されたものを、また、歩行者と自動車が共存しているのを見て取れます。歴史的な町なみでありながらも現代の車社会も受け入れる。今の福島県だけでなく、もしかしたら全国的な課題なのではないでしょうか？

都をどりが開催される祇園甲部歌舞練場



花見小路では毎年4月1日から30日までの1カ月間「都をどり」が開催されます。是非一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

注) こちらの写真(2枚)の複写・転載を禁じます。



鴨川の護岸工事が1670年に完成し、新しい堤防ができる、急速に新しい町なみができていきました。憩いの場・交流の場として評判が定着し、都の人だけでなく、様々な国の旅人も足を止めるようになったのが先斗町のはじまりといわれています。



この電柱はとても長く、電線は屋根の高さよりも高い位置に配線されているのです。これならゴチャゴチャの電線もあまり気になりませんよね？特に、夜間は目に入らないと思いますよ！！

## ～ちよと一息～

まちづくり推進グループでは『元気なうつくしまづくりの本』を発行しています。

「まちづくり？聞いたことはあるけど、よく分からない。」という方！この本を読むとお分かりいただけるとと思います！

読んで見たいという方は、まちづくり推進グループのホームページ「[うつくしま、まちづくり情報発信局](#)」よりダウンロードしてご覧ください。

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>



愛媛県内子町は愛媛県のほぼ中央にしているまちです。八ぜの流通で財をなした商家が建ち並ぶ町並み保存を手がかりに、白壁と木蟻(もくろう)のまちづくりを進めてきました。今日では、“町並みから村並みそして山並みへ”をキャッチフレーズとし、農村景観保全や農産物の直売、農村民泊、グリーンツーリズムなどの、交流人口の受け入れ、第一次産業の活性化などの取組みで全国的にも知られています。



赤いポストがいい味だしていますね!



八日市・護国の町並み

内子町には、江戸時代中期から昭和初期までに建てられた商家や蔵等が現在でも数多く存在しています。(商家と蔵の数を合わせて89棟もあるんです!)

当時の面影を残す建物が600mにわたり残っているこの通りは、「八日市・護国の町並み」と呼ばれ、昭和57年に国の重要伝統的建造物群保存地区として認定されました。

**内子座**は大正5年(1916年)に大正天皇即位を祝って建設された歌舞伎劇場です。

大正時代の建物であるため老朽化が著しく、一時期解体して駐車場という意見が出たそうですが、修理の気運が高まり昭和60年(1985年)に、大正期そのままの姿に甦り現在では愛媛県内に現存する唯一の芝居小屋だそうです。



こちらが内子座です



内子座の中はこんな感じですよ!

愛媛県大洲市は四国西南地域の玄関口で、市の中央を流れる肱川を中心に、農林水産地域、流通・商業の拠点として栄えてきました。

特に肱川での鵜飼いは「日本三大鵜飼」のひとつにも数えられていて、大洲市の風物詩となっています。

大洲は南側の山地と北側の肱川に挟まれた、ごく狭い土地に発達した城下町で、現在も整然とした町並みが残っています。その趣から、「伊予の小京都」と呼ばれています。



明治の町並み

この通りは商家と武家屋敷の境界にあり、両者で好対象を見せています。腰板張りの武家屋敷やなまこ壁の土蔵があり、通りのいたる所に小京都の風情をみせています。



昭和41年にNHK朝のテレビドラマ「おはなはん」のロケが行われたことから「おはなはん通り」の名称で親しまれている江戸・明治時代の町並みです。

愛媛県西予市は南西部に位置するまちで、江戸末期から明治初期にかけて造られた白壁や出格子の建物が残されたまち並みを見ることができます。なかでも、中町の町並みはシーボルトの愛弟子である二宮敬作や、シーボルトの娘である楠本イネらも往来した通りとしても有名で、訪れる観光客も耐えないそうです。



中町の町並み



中町の町並み



町並みに配慮されたゴミ集積所

## ～ちよーとー息～

大洲市は、「寅さん」シリーズ第19作「寅次郎と殿様」の撮影場所です。(1977年8月公開)

実際の撮影では、市内中央を流れる「肱川」の河畔や、冒頭で紹介した「おはなはん通り」などで撮影されたようです。



# 海のむこうでは・・・

## 『車優先からトラム（現代路面電車）へ』

フランスの地方都市でも、現在の日本と同じように車社会の進展に対する対応の遅れなどにより中心市街地の空洞化が問題となっていました。

そこでフランスでは、1980年代頃から地方分権政策と車優先の交通政策の修正（路面電車の復活）という社会変革を行い、中心市街地の活性化に大きな成果を挙げています。

日本とフランスは他の欧米諸国に比べ社会構造に類似点が多く、まちづくりにおいても参考になることが多いといわれています。

Vol.2



ストラスブール

トラムを導入することによって、公共交通中心のまちづくりを展開し、大きな成果を挙げています。トラムの導入によって、高齢化社会への対応（低床式）、環境への配慮（騒音・排気ガス）、安全性、街並みと一体となった景観の形成、街のにぎわいなどが期待されます。



ナント

ナントは、1985年にフランスで初めてトラムを復活させた街です。歴史的地区の中心市街地全体を、歩行者優先道路地区にし、トラムと歩行者中心のアーバンデザインを実現しています。

### フランスと日本

こんな所が似ています！

- ・中央集権的な官僚国家
- ・農業をベースとした社会構造
- ・公共事業の重要性
- ・車中心の都市政策（路面電車の撤去）
- ・郊外型のスーパーマーケットが活発な経済活動を行っています

Vol.7



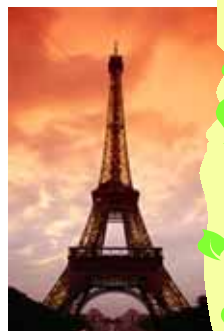
フランス・パリの街並みです。エッフェル塔の景観を阻害する高層建築はありませんよね。パリは超高級住宅地と言われていますが、ほとんどが6～7階建てです。

## ～ちよと一息～

エッフェル塔は、フランスの首都パリのランドマークとなっている塔です。フランス革命100周年を危難して、1889年にパリで行われた第4回万国博覧会のために建造されました。

建設当時の高さは57.6m、115.7m、276.1m。第2展望台までは階段でも昇ることが可能です。水圧エレベーターなど、当時の基本構造は今でも現役で稼働しています。

あまりに奇抜な外見のため、建設当時は賛否両論に分かれました。反対派の文学者ギ・ド・モーバッサンはエッフェル塔1階のレストランによく通いましたが、その理由として「ここがパリの中でいまましいエッフェル塔を見なくてすむ唯一の場所だから」と言っています。ここから、「エッフェル塔の嫌いなやつは、エッフェル塔に行け」ということわざも生まれました。



...出典：フリー百科事典『ウィキペディア』より

# いい”まち”撮ろう

まちづくり推進グループでは、「すばらしいまち写真コンテスト」を開催しています。

これは、まちづくり月間(6月)を契機に、県民の皆さん一人一人に自分たちのすばらしい「まち」(自慢できるまち、誇れるまち)を改めて見てもらい、これからの「まち」のすがたを考えるきっかけづくりを目的に写真を募集するもので、平成16年度から実施しています。

それでは、これまでの**最優秀受賞作品**をご紹介します！

## 「まちと人」部門



平成18年度受賞  
「葦と町民」  
佐藤 恒雄さん



平成17年度受賞  
「春の喜び」  
酒井 なみさん



平成16年度受賞  
「夢いっぱい」  
佐藤邦大さん

## 「まちの風景」部門



平成18年度受賞  
「渡利水辺の楽校の夕べ」  
渋谷 浩一さん



平成17年度受賞  
「郡山駅前」  
岩崎 秀夫さん



平成16年度受賞  
「県都ふくしまの夜」  
丹治美知夫さん

最優秀賞・優秀賞受賞作品は、まちづくり推進グループのホームページ「うつくしま、まちづくり情報発信局」よりご覧いただけます。 URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/shashinshuu.html>

# 元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業

まちづくり推進グループで取り組んでいる事業の中に「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」があります。

この事業は、地域みなさんが主役となり地域の歴史や文化などの地域資源を活用し、持続的成長が可能な個性と魅力ある美しい地域づくりや、交流人口の拡大に結びつく施策を各主体の役割分担のもと、ソフト・ハードの両面から推進することにより、地域に愛着と誇りを持ち、未来に希望が持てる地域社会の実現を目指して、平成16年度に創設したもので、県内各地で実施しています。

今回ご紹介するのは、“つるの湯丸”の就航で注目を集めている大沼郡三島町早戸地区での取り組みです。(ホムページではこの他の地区での取り組みも紹介していますのでぜひご覧下さい!!)



Vol.22

## “みんなの目標”

奥会津の文化を生み出した風光明媚な只見柳津県立自然公園の自然景観とオープンから2年で入湯客10万人を達成した早戸温泉など地域資源の活用を図っていきます。

地域が主体となって、早戸温泉等発着の只見川周遊観光船の就航による「川の駅」を中心とした交流人口の拡大を図っていきます。

## “地域の取組み”

### これからの取組み

- ・只見川周遊観光船就航
- ・温泉情報誌に広告
- ・高速道・鉄道周遊チケット販売
- ・只見川流域市町村との連携によるツアー
- ・地区の人々と湯治客と長期交流
- ・水鳥・野鳥とのふれあい
- ・つり情報の提供
- ・山菜採り体験
- ・いなか料理教室の開催

### これまでの取組み

- ・つるの湯ホームページ立ち上げ(検索サイトで、**つるの湯**と入力し検索するとご覧になれます)・屋形船の購入
- ・飲用温泉水の売り出し
- ・パンフレット作成
- ・四季の写真の展示
- ・イベント開催

こちらが力作のパンフレットです！  
只見川山峡21景を紹介しています(\*^\_^\*)



## “懇談会を開催しました”

懇談会の構成メンバーは、早戸温泉つるの湯企業組合関係者と早戸地区の住民計12名です。

平成16年度(4回開催) 早戸温泉を核とした地域づくりについて、船着場護岸の整備やつるの湯HPの立ち上げ、飲用温泉水の売り出しなどのソフト対策を中心に話し合いをしました。

平成17年度(4回開催) 只見川山峡21景の命名、船の運航・PRの方法、今後のソフト的取り組みの短・中・長期的展望について話し合いをしました。



懇談会の様子  
ついつい、話しに熱が入ってしまいます(\*^\_^\*)



【発行元】

福島県土木部都市領域まちづくり推進グループ

〒960-8670（住所記載不要）

TEL 024-521-7510

FAX 024-521-7956

e-mail [machizukuri@pref.fukushima.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.jp)

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>